

## 僕は後悔していない

いつの間にか、寝ついてしまった。  
目が覚めたら、もう真っ暗。  
皆、夕食を取っている。  
僕も下に夕食を作ってもらい食べた。  
皆、僕には話かけない。  
居間は静かだった。

すぐ、部屋に戻り、代数の演習をし出した。  
十一時すぎ、軽く風呂に入り、  
また、すぐ、演習に取りかかった。

彼女の気持ちがおはっきりしないのが  
ただ、今でも、気にかかる。  
しかし、これからは、勉強に力を入れる。

もし、彼女に僕を思う気持ちがあり、  
彼女から出て来るまで、僕は動かない。  
多分、彼女からは、そんな事はないだろう。

さあ、もう、そんなに考え込むな。

「もう忘れて勉強しろ！」  
本当は、僕もそう言いたい。

お前には、勉強と言う、  
お前を慰めてくれるものがあるじゃないか。  
頑張っ、頑張っ、勉強しろ！  
励むんだ！

四時の時計が鳴り、外がぼおーと明るくなって来た。  
今日も、ガンガン照りの、暑い一日になるだろう。